

# 同窓会の皆様へ

琉球大学大学院医学研究科環境長寿医科学 女性・生殖医学講座（産科婦人科）  
准教授 長井 裕（6期生）



琉球大学医学部医学科同窓会の皆様、ご無沙汰しております。平成25年4月1日に琉球大学大学院医学研究科環境長寿医科学女性・生殖医学講座（産科婦人科）の准教授を拝命いたしました医学科6期生（平成4年卒業）の長井裕です。

この度は同窓会報に寄稿の機会をいただきまして大変嬉しく思います。私は昭和61年、縁あって埼玉県から沖縄に参りました。当時は6期生が入学して「医学科の学年移行が完了」という言葉がよく聞かれました。なかなか聞き慣れない言葉ですが、これは医学科6学年すべてに学生が在籍する状態になったということでした。次は、初の卒業生を世の中に送り出す、日本で最後に設置された医学部の初々しさが直に感じられた時代でした。4半世紀以上前の思い出です。平成4年、卒業と同時に琉大産婦人科に入局しました。時は、金澤浩二教授の着任と同時でした。初期研修終了後は、途中6ヵ月関連病院勤務、英国留学を除くと大学病院勤務で、婦人科腫瘍を中心に診療と研究に従事してまいりました。

さて、私が大学入学する3年前に遠く西ドイツ（当時）でzur Hausen教授らにより子宮頸癌からHuman papillomavirus (HPV) 16が検出され、平成4年には世界的な疫学研究でhigh-risk HPVが子宮頸癌の主たる原因であることも明らかになりました。そのような時代であったからでしょうか、くちばしが黄色い頃から金澤教授のご指導のもとHPV関連会議・他施設共同研究に参加させていただき、婦人科腫瘍の道に進むことになりました。沖縄県は子宮頸癌の罹患率が高く、進行癌も多い地域です。琉大産婦人科では開講以来、進行子宮頸癌の集学的治療を医局一丸となり取り組み、そのテーマを駆け出しの頃から勉強させていただいたこと、更に放射線治療に関しても、極めて良好

なチーム医療が既に琉大病院で確立していたことも、大変に幸運であったと思います。

今は、HPV予防ワクチンが世の中に送り出される時代です。自分がHPV、子宮頸癌にかかわってから20余年、一つの疾患の原因、発生、治療、そして予防にいたるまで、諸先輩・同僚皆様のお陰により一線で勉強ができたことに感謝しています。その間、平成18年からは琉大産婦人科第3代教授として青木陽一先生が赴任され、ますます、当教室は進化しています。現在も、これまでの研究を発展させるknow-howやその実践を勉強できる環境にあることに感謝する日々が続いています。後輩医局員、また、産婦人科を希望する学生さんとも、このような素晴らしい環境で大いにこれからも勉強していきたいと思えます。

准教授として、これまで以上に教育に力を注ぐことの大切さに思いを新たにしています。学問的・技術的なことを高めること、そして謙虚・心温かい医師でありつづけること、「言うは易く行うは難し」で、医療者の1つの目標と思えます。ある青年医師（I先生）の遺稿が「妻へ飛鳥へそしてまだ見ぬ子へ」と題してテレビで放送されました（書籍もあり）。私が中学3年、高校受験直前の話です。沖縄県立中部病院で初期研修中のI先生は、ハワイ大学から赴任されたベテラン医師に、大変に我が儘な患者のことで不満をもらしたそうです。米国人医師から一言静かに“*She is sick, but you are not sick.*”と言われて我に返ったとのことでした。また、私の先輩が語ってくれた言葉に、「癌の患者さんは、命をかけて僕たちにいろいろなことを教えてくれているんだよ。」この二つの言葉は、何年経とうとも、思い起こす言葉として大切なものであると思えます。

最後になりましたが、同窓会の皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念いたしまして挨拶といたします。